

学校番号				
2	7	5	1	0

## 令和7年度 自己評価書

令和 7 年 3 月 25 日

札幌市立 稲穂小学校

### 1 今年度の重点目標

「自分で決められる子」「人間関係を築ける子」の育成

### 2 本年度の経営方針

① 学力の育成 ② 健やかな身体の育成 ③ 豊かな心の育成 ④ 信頼される学校づくり ⑤ 教職員の資質向上・健康・服務

### 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学力の育成	基本的な学習習慣の定着を身に付けるための取組(稲穂スタンダード)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の規律～」の項目に関しては、研究部を中心に「稲穂スタンダード」を推進し、同じ学習規律で6年間を育てることができ、子どもたちの安心感にもつながっている。</li> <li>・「ICTスキルの活用」については、おおむね達成しているものの、学級によって頻度の差が出ていたり、モラルに欠けていたりする児童もいるので、道徳やネットモラルでの授業を通じて指導をしていく。</li> </ul>	A	A
	ドリル・ドリルノートを活用したくりかえし学習で習熟をはかる取組	B		A	B
	協働して考える子を育む授業を行う取組(授業中での交流活動)	B		A	B
	生涯にわたって学習の基盤となる資質や能力を育てる取組(ICTスキルの活用)	B		A	A
	困り感を抱えた児童一人一人に適切な支援を行う取組(すべての子が「できる」「わかる」ような教師の関わり)	A		A	A
豊かな心の育成	自律と規律を育てる取組(あいさつ・廊下歩行・持ち物の管理)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期の初めには、「めあての確認」を。学期の終わりには、キャリアパスポートを用いた「振り返り」を必ず実施し、生活のきまりについて今年度以上に、子どもたちに伝える機会を多く持つ。</li> <li>・「にっこにこ活動」については、2年連続で同じ組み合わせになってしまう学年もあることから、次年度より学年の組み合わせを変更し、より充実したものにしていく。また、遠足などの行事とも連携し、さらに結びつきの強い交流にしていく。</li> <li>・「自分を肯定的にとらえ～」の項目では、肯定的評価が9割に達しているものの、ただ発表するだけでなく、各行事のねらいをもとに、学年に応じて子どもの育ちを大切にしたい目標を設定していきたいと考えている。次年度の学校経営方針と照らし合わせながら改善を進めていく。</li> </ul>	B	A
	いじめや不登校の未然防止・早期発見への取組(いじめアンケート・子どもたちとの対話など)	A		A	A
	自主性を育てる委員会活動・クラブ活動の充実	B		A	A
	異学年交流(にっこにこ活動)の充実	B		A	B
	自分を肯定的にとらえ、自己の成長や社会での必要感を味わわせる取組(運動会・学習発表会などの行事)	A		A	A
身やかな身体の育成	体を動かす楽しさを味わわず機会を増やす取組	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な回答が低くなっている。休み時間に元気に体を動かしている児童もいる一方で、高学年になるにつれて教室で過ごす子が増えている。委員会、学年等で自分から参加したくなるような遊び・イベント等の工夫が効果的なので次年度は進んで参加したくなるような子どもたちが増えるような取組を実行していく。</li> </ul>	B	A
	健康的な行動・生活習慣を身に付け、自他の体を大切にすることを育てる取組(保健指導)	B		A	B
	食に関する指導と食の安全の確保に努める取組(食育)	B		A	B
信頼される学校創造	情報公開とオンライン化の推進(学校ホームページ・すぐるなど)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「服務規律の確保」では、定例の会議など節目節目で啓発をし、教職員としての自覚を促していく。特に、「不適切指導」「個人情報漏洩」などについては、昨今、全国的にも問題になっているところなので啓発・指導を強化していく。</li> <li>・避難訓練については、今年度、土砂災害の際の避難経路について児童に説明した。次年度はさらに具現化し、有事の際への備えをしていきたい。</li> </ul>	A	A
	保護者との情報共有・連携(個々の家庭との連携)	A		A	A
	危機管理体制の向上(避難訓練・登下校の安全指導)	A		A	A
学校関係者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係機関等との連携についても努力されている。今後も子どもたちが主体的に安全を確保できるよう防災教育の更なる充実を期待する。</li> <li>・あいさつについては、言葉を発することなく会釈のみの児童もいるので、更なる啓発が必要。</li> <li>・今年度の教育活動全般を通じて「子ども中心」の学校改革が推進されていることがよく理解できました。</li> </ul>				